

学びと誇りが実感できるまち

～対話をとおして
深い学びを！～

庄原市教育委員会
教育部教育指導課



野に出でて写生する春となりにけり
(正岡子規)

新年度が始まりました。

まだまだコロナ禍が続いているなかにあって、日常生活にはいろいろな制約がありますが、できないと考えることや、やろうとすることにブレーキをかけるのではなく、様々な活動を通して少しでも目標に向かって前進するように、絶えず工夫を加えながら取り組みを実践していきます。

ただそれを知っただけではうまくいかない。
好きになればその道に向かって進む。もしそれを心から楽しむことができれば、いかなる困難にもくじけることなく進むことができるのだ。
【実業家：渋沢栄一 の言葉】

本年度から、中学校も新学習指導要領の全面実施となります。この新学習指導要領では、子供たち一人一人に「生きる力」を育成するために、各教科等において、次の3つの資質・能力を育成することとされています。

- ① 実際の社会や社会の中で生きて働く「知識及び技能」
- ② 未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」
- ③ 学んだことを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」

「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」と「(※)カリキュラム・マネジメント」により、3つの資質・能力を育むことを目指します。

※「カリキュラム・マネジメント」とは、子供たちの姿や地域の実情等を踏まえて、各学校が設定する学校教育目標を実現するために、教育課程に基づき組織的かつ計画的に教育課程の質の向上を図っていくことを目指すことです。

各学校の授業で行っている「深い学び」につながる工夫を、ぜひとも参観していただきたいと思います。特に、すべての教科において、対話をする授業展開がされていますので、子供たちが誰とどんな対話をしているか、その様子をしっかりと観て、家庭でも話題にしてほしいと思います。

対話とは、例えば、自分自身との対話、友達や先生との対話、本や教材との対話、学級の集団や環境との対話など、様々な対話があります。

対話をとおして、「知識がつながる」「見通しをもつことができる」「新しい発見や豊かな発想が生まれる」「自分の学びを振り返り、次の学びや生活に生かす」など、学習内容を深く理解し、能動的に学び続けられるようになっていくことを期待しています。